

会議録（要点記録）

令和3年度 堺市南区政策会議 第1回全体会	
開催日時	令和3年10月15日(金) 午後6時30分～
開催場所	南図書館ホール
出席委員	<p>安全安心創出・未来共創推進部会 近藤委員（部会長）、岸本委員（職務代理者） 大橋委員、金子委員、福井委員、二橋委員、 鈴木委員、野崎委員、正木委員</p> <p>育ち学び充実・健康長寿推進部会 松久委員（部会長）、大島委員（職務代理者） 小林委員、新野委員、徳委員 中辻委員、山口委員、栢場委員</p> <p>ブランド戦略推進・魅力創造部会 橋爪委員（部会長）、西村委員（職務代理者） 西委員、檜本委員、今中委員、 大嶋委員、坂本委員、藤原委員</p>
事務局 管理職員	<p>堺市 佐小南区長 南区役所 東屋副区長・植松副区長 井川参事・吉田総務課長・喜多区政企画室長 仲田自治推進課長・牧市民課長 米村保険年金課長・吉田生活援護課長 西地域福祉課長・音田子育て支援課長 郡川南保健センター所次長</p> <p>市長公室 手取政策企画部先進事業担当課長 泉北ニューデザイン推進室 北口事業推進担当課長</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 南区長挨拶 3. 委員・事務局紹介 4. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体会座長の選出及び職務代理者の指名について (2) 各部会の報告 (3) 堺スマートシティ戦略について 5. 閉会
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・配席図 ・資料 各部会における委員の主な意見資料

審議状況

開会（午後6時30分）

1. 開会

区政企画室長

皆様、こんばんは。定刻になりました。ただいまから、堺市南区政策会議第1回全体会を開催いたします。

私、本日の司会を務めさせていただきます、南区役所区政企画室長の喜多と申します、どうぞよろしく願いいたします。皆様におかれましては、何かとご多用中のところ、ご出席を賜りまして本当にありがとうございます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

なお、本会議は公開としておりまして、会議録を作成するにあたりまして、正確を期すために議事内容を録音いたしております。また、記録のため写真撮影を行いますので、何とぞご了承のほうよろしく願いいたします。

また、本会議は、当初8月19日に開催を予定しておりましたが、緊急事態宣言の発出に伴いまして延期いたしておりました。そのため、各部会を先に開催することとなりましたのでご報告いたします。

2. 南区長挨拶

区政企画室長

それでは、次第に沿って始めてまいりたいと思います。
初めに、南区長 佐小よりご挨拶させていただきます。

南区長

皆様、堺市南区長の佐小です。委員の皆様におかれましては、何かとお忙しいところ、堺市南区政策会議にご参画賜り、改めましてお礼を申し上げます。誠にありがとうございます。

緊急事態宣言の発出に伴い、第1回全体会でございますが、延期ということになりました。しかしながら、本日このように対面形式により開催できますこと、心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

本会議は、区の特質、実情を踏まえた政策形成を進め、特色のある区行政を実現するため、会議を設置させていただきました。本日は皆さんの忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。

今後とも、皆様、どうぞよろしく願いいたします。

3. 委員・事務局紹介

区政企画室長

次に、委員の皆様を紹介させていただきたいと思います。

この堺市南区政策会議には、25名の方にご参画いただいております。本会議では、3つの部会を設置しておりまして、部会順にお名前をお呼びさせていただきます。

また、この全体会に先立ち、既に各部会を開催しておりますので、各部会の部会長及び職務代理者を合わせてご紹介いたします。

《南区政策会議委員の紹介》

区政企画室長

それでは、座長が選任されるまで、私のほうで次第に沿って会議を進行していきたいと思います。

まず、資料のご確認をお願いいたします。

《資料の確認》

4. 議題

(1) 座長の選出

区政企画室長

では次に、次第4の議題(1)座長の選出に移らせていただきます。

全体会の座長の選出につきましては、堺市南区政策会議開催要綱第6条の規定により、委員の互選によって選出することとなっております。

皆様、いかがでしょうか。挙手にて、ご意見をお願いいたします。

岸本委員

岸本です。私から推薦させていただきます。学識経験があり、堺市の基本計画等策定計画の委員もしています、いろんな各種会議等にも出ていただいております、橋爪委員を推薦させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

区政企画室長

岸本委員、ありがとうございました。

皆様、いかがでしょうか。

(拍手)

区政企画室長

それでは、橋爪委員に座長をお願いしたく存じます。

以降の議事進行につきましては、橋爪座長をお願いしたいと思います。橋爪座長、よろしくお願いいたします。

橋爪座長

改めまして、皆さん、こんばんは。座長を拝命いたしました橋爪でございます。進行に入る前に、一言ご挨拶申し上げたいと思います。

ご紹介がございましたように、各地のまちづくり、都市計画の仕事をしております。堺市ではこの20年ほど、総合計画、あるいは、基本計画の計画立案に関わらせていただいております。

あと、2025年の大阪・関西万博に関しましては、誘致案を取りまとめる仕事をさせていただきました。現在は大阪府、大阪市等、地元出展の計画を練る仕事をさせていただいております。また2030年、2040年の大阪の計画をつくらなければいけないということで、大阪府、大阪市、堺市ともに計画に入りますランドデザインの専門家の懇話会の座長を務めさせていただいております。未来を創造しながら今後の地元、当面のまちづくりを真剣に考えていかなければいけないと考えております。

堺市の新たな構想では、「イノベティブ」という言葉がキーワードにな

ってございます。分かりにくいかもしれませんが、従来とは違う新しい社会を切り拓いていこうということかと思えます。創造的なことをしていかなければいけないということでございます。

この南区の皆様とご一緒するこの場も、「従来はこうだった」というだけではなくて、従来よかったものはそのまま継承しながら、さらに従来とは違うアイデア、違う実践をしていくということ、ぜひご一緒に考えてまいりたいと思っております。

こういう行政区の懇話会では、京都市伏見区のまちづくり懇話会の座長を20年ほど担っております。伏見区の懇話会では、区役所の建て替えとか、あとはブランド力の向上などを具体化してきました。伏見には、酒や坂本龍馬など、強力なブランドがあるように思われますが、常に新しいブランドをつくらなければいけないということを基に、今は川沿いの港を再生しようと地元を挙げて事業を展開しているところです。

また防災についても重要な議論をしてみました。伏見区はしばしば洪水があつて、なおかつ、昔、慶長の大地震のときに、伏見城が壊れたという歴史があります。いかに地震、あるいは水害対策をするのかも重要なことでもあります。

学校等が避難所になっていたのですけれども、水がついたときに、避難しにくいところに学校がある場合があります問題になりました。地震に対しての避難場所と水害の避難場所が違うとかということが従来は言われておらず、最近の検討課題として区役所で議論していたところです。

あと、子育て支援をするのかも重要なテーマとなっております。伏見には向島ニュータウンというニュータウンがありまして、少子高齢化、人口減少が最大の問題です。あと、伏見でも大学連携が重要な課題です。

今、申し上げましたように、我が堺市の南区の課題というのは、実は伏見など日本の他の場所、特に大都市の郊外にあるまち、なおかつ歴史のあるまちでは共通する課題だと思います。

伏見でも、南区の課題ともよく似ている論点が出てくるのですけれども、そこにおいて、ぜひ検討していただきたいのは、同じ課題なのだけれども、同じような解決策ばかりであってはいけないという点です。よそがしているから我々もするんだ、ではなくて、ほかのまち、ほかの区ではできてないことを我が南区ではするのだという発想をもっていただきたい。よそよりもよい南区にしていこうという思いを持っていただき、これは一言で難しいことですが、我が区の特徴を生かすことで、横並びではなく、よその区とかよそのまちとは違う、イノベティブな魅力あるまちづくりを形にできると思っております。

大阪・関西万博のテーマに「いのち輝く未来社会のデザイン」というふうには、私も参加して決めました。これは多様性の話なのですね、みんなの命が大事である、様々な人の命をそれぞれ充足されるような未来をつくっていきましょうということが大きなテーマになっております。その方法としてスマート都市のようにバーチャルとリアル、サイバーとフィジカルの融合などをはかるなど、新しい手法があります。

ただ、大事なことは一人一人の命が大事で、どんな人も充足できる人生を歩めるような、そんなまちをつくらなければいけないという点です。ぜひ、皆様方の柔軟な発想、あるいは様々なそれぞれのご専門の見地からもご意見をいただきながら、ぜひ、日本で最もすばらしいまちに南区をするんだということで、ご一緒できればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

では、議事の進行に入りたいと思います。

要綱の第6条第3項、座長の職務を代理する者を、座長があらかじめ指名することとなっております。私といたしましては、桃山学院教育大学で教鞭をとられており、また多数の自治体の会議の委員を歴任されました松久委員をお願いしたいと思いますが、松久委員、いかがでしょうか。

松久委員

お引き受けさせていただきます。皆様、よろしく願いいたします。

(拍手)

橋爪座長

松久委員、よろしく願いをいたします。

4. 議題

(2) 各部会の報告

橋爪座長

それでは、議題の(2)各部会の報告に入りたいと思います。

各部長からご報告をお願いしたいと思います。その前に、まず各部会における議論のテーマなどについて、区役所の事務局より説明をお願いいたします。

区政企画室主幹

南区役所区政企画室の内山と申します。よろしく願いいたします。

各部会でご議論いただきました、テーマ等についてご説明をさせていただきます。資料「各部会における委員の主な意見」についてご覧ください。なお、南区役所の説明概要は、資料の四角囲いの中にまとめております。順番にご説明をさせていただきます。

まず、安全安心創出・未来共創推進部会では、南区防災活動支援事業の拡充について、事前評価をしていただきました。

近年、風水害や大規模地震の発生を受け、南区自治連合協議会の各校区、地区において、防災に対する関心や意識が高まっている一方、地域で共助の役割を担う自主防災組織では、高齢化により次世代の担い手不足が懸念されており、その育成などが求められております。今後、当事業において防災士の育成や、訓練の実施を予定しており、このことについてご意見をいただきました。

続きまして、2ページをご覧ください。テーマにつきましては、「人や環境にやさしく、安全・安心で快適に暮らせる都市環境の形成などについて」といたしまして、サブテーマを「地域との共創による防災対策について」とさせていただきます。

防災における共助では、発災時に地域住民が連携し、初期活動が円滑に行われることが重要であり、住民の地域コミュニティへの積極的な参加が求められます。

人口減少と高齢化が進む中、次世代の担い手不足や自治会活動への参加者の減少など、これまでの共助の対応が難しくなっており、新しい共助の在り方、地域との共創による防災対策についてご意見をいただきました。

続きまして、4ページをご覧ください。育ち学び充実・健康長寿推進部会では、南区子ども家庭支援対策事業の拡充について、事前評価をしていただきました。

家庭やその子どもにアプローチし、虐待や不適切な養育環境を改善するために、地域、区内教育等関係機関と一層の連携強化を図ります。子どもの生き抜く力を育成するワークショップ事業の本格的な展開や、前向き子育て応援事業を实践できる人材の養成、関係機関との連携研修の実施などに取り組む予定をしており、このことについてご意見をいただきました。

また、資料の下部に記載しておりますテーマにつきましては、「教育と福祉の連携による子どもの生き抜く力の育成や新たな連携モデルの構築並びに健康寿命の延伸などについて」とさせていただき、ライフステージに応じた自己肯定感及び自己有用感の醸成について、ご議論いただきました。なお、先日の第1回会議では乳幼児期、学童期、青年期を中心にご議論いただきました。

続きまして、6ページをご覧ください。ブランド戦略推進・魅力創造部会では、南区スマート区役所事業の拡充について、事前評価をしていただきました。南区役所では、ICTの導入とすべての人にとって優しい空間の創造により、安全・安心で高機能な区民サービスを提供する未来型区役所、スマート区役所の実現に取り組んでおります。

市民サービスのさらなる向上のため、これまでの取組に加えて、混雑状況の可視化や、新型コロナウイルス感染症対策、ユニバーサルデザインを踏まえた、区役所の各種サイン・表示のリニューアルを行いたいと考えており、このことについてご意見をいただきました。

次に、7ページをご覧ください。テーマにつきましては、「スマート区役所、スマートシティ、南区ブランド戦略の推進などについて」とさせていただきました。

区民の生活の向上や南区ブランドの創出など、魅力的な都市空間を新たに創造することで、南区に「行きたい」「住みたい」「住み続けたい」に繋がっていくことが重要であり、南区ブランド戦略の推進や新たなブランドの創出についてご意見をいただきました。

南区からのテーマ等についての説明は、以上でございます。

橋爪座長

では、各部会長から部会での主な意見の報告をお願いいたします。

まず安全安心創出・未来共創推進部会の近藤部会長より、ご報告をお願いします。

近藤部会長

近藤と申します。

私は、堺市全体の津波や高潮のときの避難の情報について助言をしたり、大和川、石津川などの洪水の場合の、避難のあり方についても検討しております。

安全安心創出・未来共創推進部会は、10月4日に対面で行われました。まず、ご提案されている支援事業の事前評価について、まずポイントが2つありまして、先ほど説明があった、防災の助け合い、「共助」を担う人材の育成ということで、防災士の育成を進めていこうということがありました。

もう一つは、コロナの経験を踏まえて、避難所をしっかりと開設できるように、特に福祉避難所の開設、この充実化を図っていこうということが述べら

れていました。たくさん意見が出たのですけれども、まとめるならば、ぜひ進めてくださいという前向きな意見ばかりでした。議論の中で、質問がいっぱい出たというのが、特徴的だったと思います。

例えば、福祉避難所って南区のどこにあるのか、どれだけあるのか、どれだけの人数が入れるのか、どういう方を想定しているのか。実際にたどり着けるのかなどなどで。これだけ意見が出たというのは、興味関心の高い領域であるということですが、しかし、従前のこれまでの周知策に、ちょっと課題があったかもしれないということが浮き彫りになりました。

ですので、この防災の活動の支援事業ですけれども、防災士の育成とか、福祉避難所の開設訓練をする場合に、なるべく多くの人に周知をしたらどうか。そして、関係者の方に、一緒に見てもらったり、参加してもらおうといいじゃないか、ということが意見として出ておりました。こうした意見を踏まえて、南区防災活動支援事業に取り組んでいただきたいと思います。

続いて、この本部会におけるサブテーマ「地域との共創による防災対策」について、プレ会議で、たくさん事前にいただいている意見とかアイデアをもとに、さらに意見をいただきました。私の受けた印象としては、皆さんの思いとしては、防災とか共助とか共創とか、キーワードはすごい大事なだけけれども、実質を伴うものにしたということ、かなり踏み込んだ意見をいただけたと思っています。意見一つ一つが、かなり具体的でした。しかも南区に引き寄せて、南区らしい方法を探りたいということかと思えます。

たっぷり意見は並んでいますけれども、ちょっとだけ例を示しますと、例えば南区小学校区で指定避難所を構えていますけれども、わざわざ離れた小学校まで本当に行かないといけないのかとか、もっと別の施設も使えるんじゃないのか、そうした検討が必要なのではないのかとか。指定避難所に行きたいと思っていない人も結構いるのじゃないのか。実態はどうなんだろうということ、SNSを使ってアンケートでもしてみたらどうかという意見まで頂戴しました。やってみたらいいなと思うのですけれども、地理的な範囲として、具体的に小学校区で考えるのか、共助とか地域というコミュニティの大きさのサイズを具体的にどう考えるのかということ、検討課題としていただきました。

住民というけれども、自治会に入っている人と入っていない人についてはどうするのか。民生委員さんが担当区としているエリアと、自治会の範囲もずれているけれど、どうするのか。そうしたことがいっぱいあります。

高齢化して、人口減少している中で、何か新しい共助を生み出せないかということで、今後話し合っていくのですが、既に大学との連携は図っていきたいという意見が多数出ておりました。

それから、離れた場所、災害が起きたときに被害が及んでいないような場所など、自治会同士の連携が模索できないのか。教育施設や文化施設とのネットワーク、さらにふだんからのお付き合いを強化するような取組、枠組みをつくっていけないかという意見をいただきました。

まとめですけれども、安全安心創出・未来共創推進部会の部会の中で、にわとりとたまごというフレーズをいただき、印象的でした。防災と福祉とか、防災とまちづくり、どっちから先に入るかと考えた場合に、防災、防災という、結構及び腰になってしまうところもあるけれども、安全・安心の分野はみんなが当事者にならざるを得ないので、あえて防災の問題に取り組んで、それをてこに地域づくりを行ってはどうかということです。

安全安心の取組が南区の活性化につながるようなやり方がないかとか、まさに言えばブランディング、こんなに安全で安心なまちだといいな、そうい

うふうにつながっていけないか、そういう相乗効果を狙えるような、筋道を探っていけたらと思います。

橋爪座長

ありがとうございました。

引き続きまして、松久部会長より、育ち学び充実・健康長寿推進部会のご報告をお願いいたします。

松久部会長

松久でございます。よろしくお願いいたします

こちらの部会は、9月22日にオンラインで開催いたしました。ここでいただいた主な意見について、報告いたします。

まず1つ目の施策・事業等の事前評価についてでございます。子どもの生き抜く力を育成する講演やワークショップを実施しても、不登校の子どもや親など当事者は参加できていないのではないかと。当事者や学校とのつながりが少ない家庭に情報を届け、参加してもらおう仕掛けを考える必要がある。

また、子どもの不登校について、地域での発見や見守りなど地域との連携も必要である。

研修などの開催について、リアルタイムにご参加いただけなかった先生方や保護者に対して、オンデマンドで配信するようなシステムをつくってはどうか。情報を南区の財産として発信できるようになれば、よりたくさんの方に知っていただけるようになると思う。このようなご意見をいただきました。

新聞でも、コロナ禍で児童生徒の不登校が増えているということがニュースになっておりました。これも大きな問題である。コロナ禍ということでオンラインやリモートワークなども進みましたが、それをオンデマンド配信のような方向で広めることができたらいいのではないかとというようなご意見でございました。

これらの意見を踏まえて、南区子ども家庭支援対策事業を推進していただければと思っています。

2つ目に、テーマについてでございます。本部会におけるテーマ、特に乳幼児期、学童期、青年期の自己肯定感及び自己有用感の醸成について、様々なご意見をいただきました。

意識的に子どもを生かし、いいところを褒めてあげよう、できなかったことができるようになったときに、声をかけてあげようという心がけており、その声かけ一つによって、子どもの心が変わることがある。子どもが家庭でも学校の話をするようになり、保護者自身が味方になってくれる効果もあるかもしれない。そうなれば、家庭の協力も得られ、家庭や子どもの状況も話しやすくなり、いろいろな場面で関係づくりができ、子ども自身の自尊感情が高まる。また、保護者にフィードバックすることで、喜びを分かち合うことができ、子どもも親もつなげて輪になっていくことが重要である。

また、保護者の影響が大きい。親の思うような子どもでないと、家庭の中での一員として成り立つことが、難しいと感じる子どももいるのではないかと。身体的暴力やネグレクトという虐待もあるが、大学生の場合、学費の面で頼らざるを得ない場合が多く、親からの期待により、本人の希望とは異なる進路を選んだといういわゆる教育虐待、心理的虐待というものもあると感じる。懇談等により、保護者が変わると学生も変わるという意見がありました。

少し補足いたしますと、親から非常に期待をされて、育ちの中でいわゆる教育虐待といわれたりしておりますが、例えばいい中学校、いい高校、いい大学に行くことや、それから、またスポーツの面で大活躍すること、いろいろな習い事、月曜から金曜まで毎日のようにいろいろな習い事をするという中で、子ども自身が好きなことであればいいのですが、親の期待を裏切らないように頑張り続けている子どもたちも身体的暴力やネグレクトと違って心理的な虐待を受けているというような話でした。教育は一生続くものであり、子どもの時代にどんな環境を与えるかが大事だと思う。子どもと高齢者が交流する中では、多くのことを学ぶことができ、そういった場合は貴重である。

また、第1子の子育てで、どういうふうトラブルに対処していいかわからない手探りの状態のときに、先生から「上手に育てていますね」や「今日、こんなことがあったんですよ」と声をかけられるたびに、親としての自己肯定感が上がっていった。地域での活動においても、関わる保護者に声かけをしたり、親同士で褒め合ったりすることで、子どもを怒らずに接するきっかけになっている。乳幼児や学童期最初のころは、親の自尊感情を高めることも大事だと思う。また、ボランティア活動などを通して、いろいろな方に感謝されたりするとうれしく、自己肯定感につながると思う。

高校生ぐらいになると、いじめなどによる自尊感情の低さを取り除くことは難しいことだと思う。子どもの悩みは親の悩み、親をケアできるシステムがあればと思う。

以上のようなご意見をいただきました。これからの子どもをどう支えていくのか、その育ちと学びをどう保障していくのかについて、継続的に議論していく必要があることを共有いたしました。

そして愛着の問題を抱えている保護者も多くなってきています。子どもを支えるということとともに、やはり保護者へのサポート、ケア、丁寧なアプローチが必要であると考えています。少し話を聞いてもらったり、親同士で集まったり、何日間か子育てから離れる時間をつくるなど、少しのことで乗り越えられる親もいると思います。同時に、親の自己肯定感を育むことにより、子どもの自己肯定感が高まるよい循環が親子の間に生まれます。誰かの役に立つということで、自己肯定感がより一層育まれるといった議論も行いました。次回も、本テーマについて継続して議論を行う予定としており、主に次回は、成人・壮年期・高齢期を中心にご意見をいただく予定でございます。

橋爪座長

ありがとうございました。

では、最後になりますが、ブランド戦略推進・魅力創造部会、私が部会長を兼務しておりますので、私よりご報告をさせていただきます。

我々の部会は、9月29日に開催をいたしました。リモートでの開催でございました。まずは施策事業の事前評価ということでございまして、南区スマート区役所事業（拡充）の事前評価について、ご意見いただきました。

多様なご意見がございましたが、私の印象的なことを申し上げたいと思います。まず、高齢者、デジタル等に慣れてない方々に、配慮が必要であろうという視点です。また、若年層と高齢者では情報の共有の方法論も異なるであろうということで、区役所にしっかりとサポートいただきたいというご意見が強くあったと思います。「やさしい区役所」を実現してほしいということ強調されておりました。あと、デジタルとアナログの融合が大事だということがございました。

また、SNSの活用というのが、大きな流れ、社会全体の流れになります
が、双方向性ということになってまいります。市民同士のつながりや、子育て
家庭の交流など、様々な仕掛けが必要であろうというご意見を頂戴いたし
ました。

一方で、スマート化していくのが、単に効率化の話だけにならないよう
に、特にセキュリティ上の問題等々が、今社会問題になっておりますので、
市民が安心してアクセスできるように、セキュリティをきちんとしていただ
きたいというご意見もあったと思います。

あとは、私が申し上げましたが、この分野では日進月歩でありまして、民
間ではどんどん新しい技術が進んでいる。数年前のスマートフォンは、今か
ら思えば何だったと思うように、僅か数年で進化している。それに応じて全
く違うライフスタイルが見えてきています。そこにあって官民のスピード感
の差というのは、絶えず感じるところでございます。スマート化も、ロード
マップを掲げて進めているわけですけれども、時々技術的なものがスキップ
して飛躍的に変わることもあり得るということで、臨機応変に対応し、進め
てやっていただきたいということを、私から申し上げました。

様々なご意見がございましたが、皆様方の意見を踏まえて、南区のスマ
ート区役所事業に、取り組んでいただければと思います。

テーマといたしましては、スマート区役所に加えて、スマートシティ、南
区ブランド戦略の推進等々に関しまして、意見交換をさせていただきました。

我々の部会では、堺市のスマートシティ戦略についても説明いただいた上
で意見交換をさせていただきました。その中で、「Play SENBOKU」という
コンセプトがすてきだ。面白い、わくわくするようなものを考えて、
プランニングすべきだというようなご意見がありました。

あと、これは全体につながるのですけれども、どうも少子高齢化というの
が問題・課題だと考えがちだが、そうではなくて、少子高齢化もチャンスで
あると考えるべきだというご意見がございました。特に新しい技術を、自分
のわくわくにつなげていくということについて、今後議論されていくと
ご意見もございました。

また、大きな柱としましては、南区には様々な歴史があり、南区は宝の山
だというご指摘をいただいております。様々な有名な人物が活躍した場所
でもある。ただ、それを知らない区民の皆様が多い。対外的にブランディ
ングする前に、市民が我が区への誇りを持たないといけないというのが、
ブランディングの基本の基本だと思いますので、この歴史を重視するとい
うことは重要だというご指摘がございました。

あと、もともとの強みを生かすべきであろう。南区としてのオリジナリ
ティを何に力を注ぐべきか議論すべきだという意見がございました。

人口減少に対する対応といたしまして、単に人口を増やすということだけ
ではなくて、多世代が暮らしやすい地域であることが重要であると。若い世
代を呼び込むことも大事な視点であるというご指摘もございました。計画
では、人口というふうに示しがちなのですけれども、人口の中にも様々な多
様な人々があり、それらの人々を、呼び込むことが大事だというご指摘
だったと思います。

以上、一部だけご紹介いたしました。ご意見をまとめれば、歴史を大事
にしながら常に新しいものを生み出し、多様な方々、若い世代を含めて呼
び込むような南区にしたいということに集約できるかと思っております。ま
た、冒頭に申し上げたように「イノベティブ」が堺市全体の将来構想のキ
ーワード

になっております。具体的なイメージがわきにくいかとは思いますが、イノベティブな地域づくり、あるいはイノベティブな区役所を進めていくということが重要だと思います。次回以降も、このテーマについて深く議論を進めてまいりたいということでございます。

ありがとうございました。3つの部会のご報告でした。今の報告も含めまして、後ほど少し時間を取らせていただきますので、質疑応答、あるいは追加のご意見等がありましたらご発言いただければと思います。

4. 議題

(3) 堺スマートシティ戦略について

橋爪座長

議題4の(3)堺スマートシティ戦略について、に入りたいと思います。

先日、私ども今申し上げたブランド戦略推進・魅力創造部会では、新たな魅力創造の視点ということから、泉北ニューデザインとの関連の視点でスマートシティ、堺市全体の取組についてご説明いただきました。この堺スマートシティ戦略は、我々の部会だけではなくて、ほかの2つの部会にも共通して重要だと思っております。

本日は、堺市南区基本計画との関連、さらに基本計画を踏まえ設置された部会との関連の視点で、堺スマートシティ戦略について、概要を説明いただければと思いますのでよろしくお願いします。

政策企画部先進事業担当課長

改めまして、堺市政策企画部先進事業担当課長の手取でございます。

我々はスマートシティというものを、今後取り組んでいこうと考えておりまして、今日はその説明をさせていただきたいと思っております。

3つの部会の中でも、スマートシティに関しましていろんなご意見をいただいているところでございますので、今日は南区基本計画と堺スマートシティ戦略の関係性について、ご説明させていただきたいと思っております。広報さかい10月号にスマートシティ推進について掲載させていただきました。

実は、私はもともと南区役所の介護保険のほうで仕事をしておりまして、ずっと区役所の窓口で、高齢者の方と接しながら、その後、本庁の財政課に行きまして、お金の話をしながら、いろんな施策を推進してきました。そして今の政策企画部というところで、今度はスマートシティというまちづくりをする仕事をしています。スマートシティといいますと、一般には、例えばスーパーシティや、トヨタのウーブン・シティみたいな新しいまちが出来上がるようなイメージがあるかもしれませんが。スーパーシティという一つの完成した形を最初にデザインしながら、そこをめざしていくという手法もあると思いますが、すでに住民が暮らしている南区のようなまちでは、住民のみなさんのニーズや、大学や企業の発意をつなぎ合わせながら、何が正しいのか、常に考えながら進めていくべきではないかな、と考えています。

スマートシティの形はさまざまあると思いますが、外形的には一つ決まっております。ICTを活用しながら、住民の皆さんの生活の質を上げる、こんな言葉が定義になっていきます。ただ、生活の質を上げるとは何かというところがいろいろで、難しいところになってくると思います。

我々も庁内でたくさんの議論をしますし、南区やニューデザイン推進室、あるいは住民の方や企業の方とも、いろんな議論をしているのですが、スマ

ートシティで1つ分かっているのは、スマートシティというまちがあるわけじゃないということです。

スマートシティというのはICTという、一つの手段、概念を活用しながら、これまでの取組にプラスアルファあるいは掛け算をしていくということなのだろうと思っています。

ICTというのは目的を達成するためのツールに過ぎず、そのツール、新しい概念を使って、何か違うことをつくっていけないのかに取り組むことがイノベティブというものではないかなと考えています。

先ほど、座長のほうからもイノベティブとは何かというお話がありました。当然、イノベティブにはいろんな形、意味があると思うのですが、私なりに考えているイノベティブというのは、やはり新しいものと古いもの、これまで培ってきたもの、これが融合して掛け算でブレイクスルーのようなことができるというものじゃないかと思っています。これまでやってきたことであるとか、あるいは行政が今やっていること、これをしっかりとやりながら、何かブレイクスルーをつくることできないかということ、僕らはいつも考えないといけないのかなと思っています。

なので、「高齢になり健康が不安である。」とか、「災害が起きたらどうしよう。」とか、「仕事と子育ての両立が難しい。」というような形で、地域の課題や個人の課題はたくさんあり、そこに、これまでの取組にプラスアルファで何かICTを活用することで、取組を進めていければと思っています。

例えばですけれども、見守りがこれまで以上に効率的に、あるいは効果的に簡単にできるのではないかと、とか、あるいは、GIGAスクールについて、学校の先生方も苦勞されながら取り組んでいるところだと思いますが、ICTを使うことで、子どもに興味を持つであるとか、こういったコロナの中でも、授業や学校のコミュニケーションを続けることができる持続性、レジリエンスというものが、その取組を進める価値になるのではないかと思います。

あるいは、デジタル・ディバイド対策についても、今はスマホなどなかなか使い方が分からないということがあるかもしれませんが、それもだんだん、何かを目的に、一緒に講座や活動などを進めていくことで、ICTに触れにくい方々とも、少しでも生活を変えていく新しい取組を進められないかということを考えております。

そうやって、少しでも住みやすく、もっと住みやすく、もっと暮らしやすくということを考えながら進めていく、そうして住民のみなさんや企業のみなさん、大学の皆さんなどの仲間をつかって、できることを進めていく。それがスマートシティなのかなというふうに考えています。

ICTを使った具体的な事例として、お出かけをどんどんしていただくことによって、心身も健康になるし、あるいはお友達ができるみたいなこともあります。それがリアルの場合だけでなく、例えばSNSを使う。趣味の友達と、スマホを使ったネット上で、つながり、都合のついた人とお出かけをする。さらに、オフ会じゃないですけれども何か月に1回、メンバー全員とリアルで会うとかによって、友達を作ったり、外出頻度を上げたり、それによって健康になるということがあると思います。

また、災害時に高齢者が、自分の居場所を自動発報することで、家族であるとかご近所の方に伝える、助け合いができることもあると思います。

子育て世代で言いますと、例えば、地域や学校に関する自分の情報について、本人同意をいただき、それをパーソナライズ化して様々なデータや情報

と連携する。それによって、本人やお子さんなどに欲しい情報が届くであるとか、あるいはマイナンバーカードなんかも、今は普及が進んでおりますけれども、例えば今回のコロナのように必要な支援であったり給付金であったり、こういったものがあなたは受け取れますよというようなレコメンドが届くということもできるのではないかと考えております。

もちろん、できるできないという技術の問題だけでなく、実施に関するコストの問題もありますし、個人情報の話など、いろんなことがあると思いますが、笑顔があふれるまちにするために何ができるのかということのを改めて考えるきっかけ、その手法がICTであってスマートシティなのかと考えています。

我々も悩みながら、答えがなかなかない中で、いろんな仮説を立てながら、進めていきたいと考えています。我々行政が変わる一つのきっかけでもあります。公民共創、公民連携ということで、住民の視点に立って、民間サービスをいかに便利なもの、あるいは少しでも安いものをシェアしながら提供できるのかを考えることもこれからの新しい役所の仕事なのかと思います。ユニバーサルサービスである福祉であったり、健康であったり、例えば教育、こういったものはしっかりと確保しながら進めていくことが、プラスオンとしてのスマートシティを進めることも重要なことと考えております。

そういった中で、今年、堺スマートシティ戦略を策定しました。この堺スマートシティ戦略につきましては、SDGsであったりSociety 5.0とか、こういった背景を色々書いておりますけれども、その一つの理念としてICTを活用して、まちと暮らしにイノベーションを起こすと書いています。

イノベーションについては、先ほど申し上げたとおり、ICTは一つのきっかけで、何か新しいものを生み出すものだというふうに考えています。我々はライフスタイルにイノベーションを推すというのが、スマートシティの目的のひとつかなと考えております。

例えば、10年前、20年前に比べて、多分まちそのものの姿、ハードはあまり変わっていないだろう。道路も変わってませんし、多分まちの姿もそんなに変わっているわけじゃない。ただ実際にはスマートフォンであったりとか、あるいはインターネットであったりとか、10年前、20年前とは、多分生活のスタイルが少しずつ変わってきていて、それが当たり前になってきているという世界が、今なのかかなと考えてます。

そういった意味で、まちが変わるといよりも、私たちの生活がだんだん変わって行って、それにまちづくりや行政や皆さんの活動とが融合・適応する、そういう生活に根差して暮らしがすこし便利になっていくのがスマートシティなのかかなというふうに考えています。そういったことをしっかりと踏まえながら進めていくのだというところで堺市スマートシティ戦略の理念を書いております。

ただ、そうは言っても、いきなり進むものではないので、4つの戦略方針を書いております。

1番目の「イノベーションを実装する環境をつくる」については、行政自身も民間の皆さんと一緒に、いろんなイノベーションをやろう、実装プロジェクトを積極的にやっています、行政も変わりますよということを表しています。2番が、単なる技術実証みたいなものじゃなくて、例えば教育について何かしたいとか、防災について何かしたいとか、何かを変えたいのだという行政の思いを持ちながら、課題解決型のプロジェクトをスピーディーに実行するのだということです。

3つ目は、データ連携という形、都市OSと一般に言われるものになります。いろんな都市OSの形があるのですが、いわゆるサイロ型といいますか、これまで教育であったり、防災であったり、個別のサービスに最適な形ということで、アプリであったり、サービスのかたちがつくられるのですけれども、そうじゃなくて、いろんなサービスとデータ連携をしながら、新しいものをつくり出していきたいなと思っています。こうした都市OSをつくることも大阪府と連携して進めていくことを考えています。

4点目として、重点的に取り組むということで、堺市全体でやることも当然必要なのですが、地域を限定しながら、重点的に取り組むということが重要と思っており、重点地域として泉北ニュータウン地域、泉北ニュータウンを含む南区にしていきたいと思っております。

なぜ南区かについて、高齢者が多いという特徴があります、50年前にできたまちで、光明池も梅・美木多もこれから変わっていく、あるいは公的賃貸住宅の建て替えがどんどん進み、ハードも変わります。こういったところも含めて、やはり南区でスマートシティを進めることで、実際に住民の課題や思いが解決できるのではないかとということで、重点的にやっていきたいと考えています

もう一点は、自治会を含めて、非常に住民活動が盛んな地域でございますし、それぞれの思いを持って活動をされている方が多いということもございます。やはりそういった蓄積された住民力と一緒にこそ、課題解決が実現すると思っております。

この泉北スマートシティ構想のコンセプトを「Live SMART, Play SENBOKU」と書いているのですが、「暮らし愉しむ、アソビのあるまち」、何を言っているかといいますと、スマートというのは、ICTのスマート、つまり「効率よく」というだけではなくて、楽しく生き生きと暮らすという意味だと思っています。

なぜかという、泉北というのはやはり教育環境であったり、子育て環境であったり、あるいは緑の環境というのが、非常に優れたまちですので、こういったまちで暮らすこと。なおかつ泉北というまちを楽しむということがICTを活用することで掛け合わされて、例えば余白の時間であったりとか、コミュニティのお付き合いみたいなことが実現するんじゃないか。そういったまちをつくらしていきたいというのが、泉北スマートシティ構想のコンセプトでございます。

その中で、先行的に取り組むテーマとして、都市環境の中ではモビリティとエネルギー、生活と仕事でヘルスケアとリモートワーク、交流の中ではコミュニティというものを中心にしながら、幅広い範囲で取組を進めていきたいと考えています。

堺市南区基本計画、いわゆるみなみスマートビジョンなのですが、将来像として「自然とふれあい、人と人のつながりを大切にする都市（まち）」と書いておまして、その基本方針として、1「ひとが絆を結び、安全・安心で快適に暮らすことができる都市（まち）」、2「ひとがいきいきと輝き、健やかに成長することができる都市（まち）」、3「ひとが未来へと紡ぎ、魅力と誇りを育むことができる都市（まち）」という基本方針を持っております。

特にこういった具体的な方針の下に、具体的な取組を区政策会議の中で議論をしていただき、重点施策の中で、1つ目の安全安心創出・未来共創推進部会では、従来から取り組んできている、あるいは課題であったコミュニティであったり、防災・防犯であったり、多様性、こういったものにICTを

掛け合わせることで、何ができるのだということを考えていく、そういったことが必要だと思っております。

あるいは、育ち学び充実・健康長寿推進部会でも、同じように重点施策の中で、子育て、教育、健康長寿、あるいは市民参加、市民グループによる地域福祉、これとICTが組み合わせればどんなことができるのか。

ブランド戦略推進・魅力創造部会の中には、スマート区役所、ブランド創出、魅力的な都市空間というのと、ICTを掛け合わすというふうになります。地域活動が盛んな泉北ニュータウン地域でICTによって、交流とか市民共創がもっと促進できないかという中で、なおかつ、災害など有事の際には、自分の居場所をICTで伝えられないかということを考えたときに、都市OSにもなるのですが、例えばヘルスケア、モビリティ、エネルギー、オンデマンド、シェアリングなどで、行きたいところに行けるだとか、パーソナルモビリティが使えるような世界であれば、もっとお出かけが進むのではないかということが考えられます。高齢者の方からよく聞くのが、別に車いすは要るわけじゃないのだけれども、ちょっと歩くのがしんどくなってきた、だから杖があったら歩けるのだけれども、ちょっと出歩くのがしんどいという声を、よくいただきます。そういったときに、例えばシェアリングの中で、もしかしたら100円とか、200円かかるかもしれませんが、自分の行きたい場所に自由に行けるというようなサービスです。

あるいは、中距離を移動するときにはオンデマンド、当然南海バスなど定時・定ルートバスはあるのですけれども、定時・定ルートに乗らない場所に行きたいときに、使えるサービスはないのか。そういったものの先に、例えば医療機関であったりとか、あるいはスーパーであったりとか、そういったサービスにつながることで、いわゆるMaaSといわれる世界になるのですが、そういったことが地域でできないか。

その中には、エネルギーであったりとか、いろんなサービスがそのモビリティの先、出かける目的の場所に出てきたい、出てきやすいという世界をつくりたいとも考えます。

さらに、リアルだけじゃなくて、都市OSというシステムを使いながら、実際に会わなくても、この人は今何をしているのかな、友達は何をしているのかなというのが分かるような世界、友達が今は何をしているよというのが通知されてくるような世界の中で、バーチャルでも友達ができて、その方々とつながることができないかということも考えられます。

あるいは災害時、要援護者みたいな当然切実な問題があり、災害時にご家族や要援護者の方の位置が、ふだんは当然個人情報なので分からないけれども、災害時にはぱっとそれが近くの方に通知されるような、そんなことはできないのかと考えています。そういったことを含めて、当然できるできない、あるいはお金がどれだけかかるのかという課題はあるのですけれどもICTやスマートシティでこんなことがしたいと我々は考えています

あと、8月30日に開催の大阪スマートシティ戦略会議において、大阪府が、スマートシニアライフ事業をこれからやりますとおっしゃっています。デジタル・ディバイド、つまり高齢者の方がスマホを持っていない、使いこなせてないというところがあり、ほとんど電話しか使っていないということが多いと思います。そこで、実際にサービスを使ってもらおう、サービスを使ってもらおうと思うと、役に立つサービスにしかつながらないので、民間にコンテンツを提供してもらいながら、そんなサービスができないかというようなことを大阪府は考えておられます。今年、来年と、こういった実証事業をしたいとおっしゃっています。

これはどこまでできるかわからないですが、例えばカラオケや、文化、健康、買い物代行とか、資産サービスであるとか、配食サービスとか、こういった民間のサービスをワンパッケージで一つのアプリ、サービスをしながら高齢者の方々に使っていただく。それが本当に使われるのか、そこからどんなサービスが生まれてくるのかというところのデータを取りたいというのが、大阪府さんの実証事業の一つです。こういったことを府内でやるなら、泉北ニュータウン地域等でできないのか、と大阪府と今お話をしています。

こういったところを含めて、我々はSMART SENBOKU PROJECTというブランドをつくっております、大阪府と堺市と連携しまして、堺市全体の地域、主に泉北ニュータウン地域等でどんどん実証事業をしていきたいと考えております。

当然、地域の声とすると、そもそも近隣センターのスーパーを早く呼んでほしいというお声は、当然承知しております。昨年、まず買い物実証プロジェクトということで、キッチンカーと移動販売車、ダイエーであるとか、無印良品とか、サンプラザなどの皆様にご協力をいただいて。出かけていただいた先でお買い物ができる。あるいはおいしいものが食べれるようにという実証プロジェクトをいたしました。

それから、教育もGIGAスクール構想を行いました。そして、今はNTTと、パラマウントベッドにさせていただく安心睡眠サポートということで、寝ている状況をベッドにセンサーを置きまして、センサーで健康状態であるとか、眠りなんかを感知し、それを本人さんにお伝えしたりとか、あるいは離れているご家族に通知するというような健康と見守りのプロジェクトを行っております。

それから、泉北アバタープロジェクトということで、大阪大学の石黒先生、西尾先生とともに、社会参画のプロジェクトを行いました。南区子育て支援課と一緒に、ロボホンを使いながら、社会参加するとき、自分かその場に行くというだけでなく、オンラインでもいいのですが、自分がロボットになりきり、高齢や障害や越えて、新しい社会参加の形ができないかというプロジェクトをやりました。

それから、マチマチSNSを使いまして、南区のお得情報や口コミ情報をどんどん発信していこうという取組を、今やっております。行政はいっぱいツイッターを持っているのですけれども、このツイッターに一個一個登録しないと情報が来ないということがあります。このマチマチの実証事業では、行政が持っているいろんなツイッターを統合して配信しています。あるいは、NPOとか市民活動団体を募集し、そういった方々のツイッターも一緒にアップできないかということ、南区と政策企画部とでさせていただきました。

現在、やっております「g i v (ギブ)」という団体との実証ですけれども、お金を介在せずに、恩を送るペイフォワードというもので、ICTを使いながら、例えば、ヨガを誰かに教えるということをやって、ヨガを教えてもらった方が次は自分が何か得意なもので誰かに何かをしたいと。どんどんわらしべ長者のようにICT上で誰かに恩を送っていくというようなことをすると、それがどんな幸せや住民の満足につながっていくのかという実証実験を10月31日までさせていただいております。

あるいは、デジタル・ディバイド解消ということで、SOMPOフォールディングとみずほリサーチ&テクノロジーズと一緒に、スマホ教室をさせていただいたり、ケアラー支援ということで、実際ケアをする方の負担を軽減するためのデジタル・ディバイド対策の取組をさせていただきました。こう

いったことをしながら、これからも民間含めて、悩みながらいろいろ進めていきたいと思っておりますし、皆さんのいろんなご意見をいただきながら、何かできないかなと考えております。

最後にご紹介です。去年の11月に堺市で健康福祉局が9,400人に対して行った調査の中に、スマホを含めたコロナの影響調査があったのですが、スマホの所有率を見ますと堺市全体の65歳以上の所有率は51.3%です。51.3%というと、半分しか持ってないのかというふうに見えるのですが、実は65歳から69歳の方は75.2%持っていて、75歳未満70歳から74歳の方でいうと62.9%でした。やはり世代によって、大きな差があると感じております。ちなみに、南区全体で見ますと、57.1%であり、南区の方は高齢化が進んでいるのですが、実はスマートフォンであるとか、デジタル意識が高いのかなと思っております。

それから、スマートフォンだけじゃなくて、ガラケーを含めると、実は92.3%の方が何らかのコミュニケーションツールを持っていることで、スマホかどうかは別にして、電話であるとか、コミュニケーションをどんどん取っていくというこういったデータも踏まえながら進めていかないといけないのかなと思います。そういう意味では、堺市は結構スマホの所有率が高いということが分かりました。

最後、コロナ禍でうつであるとか精神的な不安というものを感じていますかというご質問をしたときに、手紙であったりとか音声通話とかでコミュニケーションを誰かと取っておられる方は、何もしてない方と一緒にのですが、何かをされている方というのは、非常にうつとの相関関係が低いということが分かりました。

ビデオ通話やメール、ショートメールなど利便性の高いコミュニケーションツールを使われている方は、相対的に誰かとつながっているという満足感があるというところだと思います。高齢者の方に対しても、やはりこうしたスマートシティを含めたICTの活用というのは重要なかなと考えております。

私の話は以上なのですが、この後もいろいろご意見、ご質問をいただきながら、お話をさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

橋爪座長

ありがとうございました。

ただいまの説明と、先ほどの各部会からの報告を合わせて、ご意見、ご質問をいただければと思いますが、予定の時間があと10分しかございません。次回にも続くということでご了解いただければと思います。特に、これはというご発言はございましたら、事務局へのご質問でも結構ですので、挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。

中辻委員

この政策会議というのは、必ず何かしらの実現があるのですか。これを皆さんが2年間やって、何かしら会議で発言されて、こういう方向が出たから、南区としてこういう方向性でやるとかということは考えられているのですか。私らが一生懸命に意見を考えて審議したとしても、それが何もないのであったら意味がないと思います。私も33年間、堺市さんと付き合いしてきましたけれど、なかなかやってくれませんか、実現率がめちゃくちゃ低いのですよ。

今回、南区長が来られています。南区として、独自の面白い企画をすると

思っています。古い考えをお持ちの方が多く中で、南区では、新しい考えを持ち、また受け入れることのできる方が多くいらっしゃるの、そういう点ではやりやすいと思うのですけれども。どうですか。何かしら実現があるのでしょうか。

橋爪座長

ありがとうございます。
区長、お願いいたします。

南区長

ご質問ありがとうございます。南区長の佐小です。
今のご質問でございますが、本当にありがたいことに皆様お集まりいただいて、ここで議論したこと、部会で議論したことにつきましては、当然思いとしましては、何か成果物として残していきたいと思っております。
例えば基本方針や計画をつくるというような議論はよくあるのですが、ただ本会につきましては、何か報告書を必ずつくらなければならないとかそういうことではなくて、我々が政策、施策、そして事業を実施するに当たって、皆様のご意見をそこに注入して進めていきたいと思っております。
今のご質問でございますが、当然ここでいただいたご意見というのは、我々の政策、施策事業に生かしていきたいと思っております。

中辻委員

相変わらず役所の考え方ですね。生かしていきたいだけであって、見えませんもん、僕ら。はっきり言いまして。見えるものが欲しいのですけれど。

南区長

引き続き申し上げますが、生かしていくというところの部分については、役所の言い方というようなご指摘がございましたが、思いとしましては、当然ものにしていきたい、先ほども冒頭に申しましたように、成果物にしていきたいというところは間違いございません。ただ、当然のことながら、南区だけでそこは解決できるものなのか、はたまた他局とも連携しながらというようにもございますので、生かしていくというような表現を使用させていただきました。

橋爪座長

冒頭に申し上げたように私は京都市伏見区の会議の会長を20年ほどつとめさせていただいています。その会議は区の基本計画をまとめ、行程を管理する場でした。幾分ですが区独自の予算があって、区長の裁量で新しい市民の活動をサポートする事業を長年やっています。南区でも区独自のプログラムをここから提案し、予算があろうがなかろうが、区民の皆さんと区役所、行政と一緒に何かやっという機運が生まれれば、私は良しと思っております。

要は予算があって、堺市が決めたからできる行方というかたちではなくて、この会議に参加いただいている皆さんが盛り上がり、民間企業の委員も入っていただいているので、民間と行政で何か動きができるようなことを起こしていきたい。

例えば伏見では、伏見区長が神戸市東灘区と、灘の酒と伏見の酒の連携

で、行政区同士で何か新しいことをしていこうというようなことをしていた時期もあります。この場からアイデアが生まれて、それを区民の方と区役所と堺市、あるいは大阪府などと連携しながらできるようなものを、ぜひ、私としては考えてまいりたいと思っております。

意見を集めるだけで、レポートだけ出しても、全然一步も前に進まないということを思われると思いますので、ぜひ、ここから出したアイデアが、実になるようなことを考えてまいりたいと思っております。

中辻委員

賛成いたします。

橋爪座長

ありがとうございます。

ほかの方、何かご意見お願いします。

小林委員

今日、いろんなほかの部会のお話を聞かせてもらって、こちらの部会が生まれたばかりのお子さんから高齢者の方までを対象にした部会なので、それに関連するような防災とかブランド戦略とかということをお伺いして、今後部会の中で議論を深めるのに、すごく貴重な情報だったなと感じています。

引き続きこんなふうにも共有して行って、それぞれがそれぞれの部会の議論の進捗を見ながら、柔軟に方向性を変えていけたらいいのかなと思っております。よろしくをお願いします。

橋爪座長

ありがとうございます。

いろんな情報を共有していくということも、この会議の意義かと思えます。

ほかにご意見ございますでしょうか。

特にご意見がなければ、また部会を開催いたしますので、そちらで深く議論いただければと思います。何か新しいアクションがこの会議から生まれるということを期待しております。ぜひ、皆さんの実践等々を共有いただきたいと思えます。

最後、私から感想等を申し上げたいと思えます。2025年の大阪・関西万博のときに、2025年になれば世界とリモートでつながる時代が来るといことで、計画案を最初考えておりましたが、コロナ禍によって多分時代が5年ぐらい先取りしてしまいまして、世界中がリモートでつながってしまっています。そこに自動翻訳とか入ってくると、本当にかつてSFで見ていたもの、バーチャルとリアル、フィジカルとサイバーの融合ということが思っていたよりもすごく早く実現しつつある。それに対して、いかに対応するのかを世界中が競い合いながら、新しいアイデアを盛り込みつつあるというのが現状だと思えます。

今日は堺のスマートシティの話、皆さんと共有させていただきました。「遊び」という言葉が出ました。都市と「遊び」は私の博士論文のテーマであり、ライフワークなのですけれども、単にいわゆる遊びじゃなくて、もっと幅広い意味があって、車のハンドルに遊びがあるとかというときは、余裕

があるということですし。要は自由であるということが、遊びの本質です。我々はずっと自由に過ごしていけるような、そういうライフスタイルを持ちたいと思っているのですがけれども、デジタルでスマートになれば忙しくなる。スマホとかメールとかいろんなが増えていくと、どんどん忙しくなると、我々は機械に追い立てられているような、全然余裕のない日々が、スマート化の一方にあるんですね。昔はファクスとか、留守番電話に対応すればよかったものが、リアルタイムにどんどん情報が来て、自分で取りに行けるというので、それで果たして余裕があるのか、遊びがあるのかというと、逆にすごく忙しい日々を迎えているかもしれません。

そこで、堺市南区としては田園新都市という言葉を使っていますが、政府はデジタル田園都市という概念を示そうとしている。この田園都市とデジタルの融合というところに、何か南区ならではの新しいブレイクスルーがあるのではなかろうかというふうに思っております。

私は、ほかの都市でもスマートシティの仕事もしております、世界中それぞれの地域で違うスマート化が進んでいると思います。少し前はスペインのバルセロナなどが最先端で、かなり前から駐車場の事前予約とか、あるいはごみ収集の最適化とか、10年以上前から最先端だったのですけれども、最近ではデンマークとか北欧が全く違うスマート都市のモデルを示している。堺とか泉北、南区独自の、スマート化、スマート都市を実践できるようなことがあればなと思っております。

そのためには、個性が必要です。私は高校生のときに美術部だったのですが、堺市でいいますと、中学校の美術部の日本一を決める展覧会とかをこれまでされてきました。市民の方はあんまり意識されてませんが、日本中の中学校の美術部は、堺の展覧会で頑張るといのが目標になっていたりするんですね。高校の美術部は東京のほうでコンクールがあるのですけれども、そういうふうによそとは違うことをしている点に、ほかのまちではしていない、南区独自の特徴的なスマート化について議論して参りたい。皆さんのお知恵をいただかないといけませんので、ぜひ各部会で議論をいただきながら、前に進めてまいりたいと思っております。

ということで、予定の時間となってまいりました。次回以降もよろしくお願ひいたします。

では、進行を事務局にお返しをいたします。

5. 閉会

区政企画室長

ありがとうございました。

私のほうから一点ご報告させていただきます。

今後、健康長寿推進の議論をより深めるため、医学博士であり関西大学名誉教授、西九州大学看護学部教授、そして堺市社会福祉審議会会長であります黒田研二氏に、堺市南区政策会議開催要綱第7条に基づき、特別構成員としてご就任いただきますことを予定しております。就任後は、必要に応じまして、育ち学び充実・健康長寿推進部会などで特別委員としてご意見いただくこととしておりますので、ご報告いたします。

では、本日は長時間にわたりまして、ご議論いただきまして誠にありがとうございました。これをもちまして、堺市南区政策会議第1回全体会を終了します。

閉会（午後8時03分）
